

てくる言つので、俺二千万まわりしたのに、三日前に、へらへら笑いもって俺とこへ来て、はあちゃん、榎まだ行く言つとんねってぬかしやがつて、このはあちゃん、なめたらどねんなるか思い知らせたんねん。告訴するさかい、お前、ちゃんとしてくれ詐欺や、と息巻くので、詐欺にはならん、むしろ、表に出たらお前が公選法違反になるで、金用意したというが何のための金や、もし、市長が辞める為の賤別か、辞めさせる工作の為の謝礼か知らんがどちらにせよ公選法でやられるで、あの有力者というのは田川やつたんかと、まともられていきます。

以上の証言と「北川メモ」から明らかになったのは、平成十八年九月以後、田川氏と吉野晴夫氏は、霊安寺町のコーヒーハウスで計五回ほど会っていますが、二回目位に会った時、どちらから言い出したのか結論付けは困難ですが、榎市長を中途退任させることを合意し、それに関する二千万を吉野晴夫氏がまわりすることと合意していたと結論付けられます。しかし、二千万の動きにつきましては、後日、吉野晴夫氏が田川氏に二千万のお金はなかつたことにしてほしい、弁護士と相談した結果、田川氏を訴えると伝え、飯田氏ほか二名に伝えた事実か

らすれば、吉野晴夫氏の二千万が田川氏に渡ったと結論付けられませんが、しかし、結果として榎市長は中途退任しております。吉野晴夫氏の二千万が最後まで動かなかったかどうかは調査の範囲ではわかりません。

三つ目は、榎市長中途退任に関するダイオキシシン問題での田川氏と吉野晴夫氏及び関係者の会話内容と経過についてです。

田川 証人は、「辞めれへん場合は五條四丁目の過去の焼却場のダイオキシシン問題で死人まで出ている。新聞、市民パワーを起こしてでも榎市長を責める。」と吉野晴夫氏が言ったと証言しています。

又、田川 証人は、平成十九年一月三十一日、西吉野町で西口 さん立ち会いのもと榎市長と会い、辞めない場合は、ダイオキシシン問題で新聞、市民パワーを味方にしてでも榎市長を責めるといふ吉野晴夫氏の言い分を榎市長に伝えた」と証言しています。

さらに、田川 証人は平成十九年五月十四日、西吉野町で榎前市長、西口 氏、わたしの三人と各嫁三人の六人で食事をした時、榎市長の嫁はんが「悔しいねん。任期いっぱいいいかしたかった。」と言つて大泣きしました。榎市長も「ダ

イオキシシン問題で、吉野のこの話や。それやつたらもう引こうかという気持ちになつた。」と、六人のおるところで榎市長ははつきり言いましたと証言しています。吉野晴夫証人は、ダイオキシシン問題は田川 氏からも出ておりませんし、私もそういうことを話した記憶はございませんと証言しています。

榎 証人は、平成十九年一月三十一日、西吉野町で西口 氏と田川 氏とわたしの三人で会食した時、辞めない場合はダイオキシシン問題で追い込むんと吉野晴夫氏が言つていると田川 氏から聞いたと証言しています。又、榎 証人は、平成十九年五月十四日、西吉野町で会食した時、家内から悔しいという言葉が出たことは間違いございません。しかし、内容は、体がますます悪くなって、辞めざるを得ない状況に至つたことが本人がづらいであろう、悔しいであろうと、そういう思いがあつて言うた話ですと証言しました。

また、今回の退任は体の機能がもう果たさなくなつた、それで多くの皆さんに迷惑をかける、だから辞めざるを得ないと判断をしたというのを申し上げている訳です。ただ、その間に色々なことがありました。それが病気を進行させたという

ことは間違いのない事実であると、こう申し上げているんですと証言しました。「北川メモ」には、平成十九年二月十四日二十一時三十分頃、吉野氏より電話があり、やつぱりダイオキシシンのことで榎を追い込む本人は任期までいくつもりらしいが、そうされると俺には時間がない。男の意地や力貸してくれと吉野氏が懇願したので、ダイオキシシンの検査、大宇陀に出すのか費用お前出すのかとただし、たところ、いや、金は使わん、ピラ五條じゅう配るね、西崎にピラ作らすので金はかからん、場合によつたら新聞折込するのでそれ位はし

れていると言つたと、まとめられていきます。

以上の証言と「北川メモ」から明らかになったことは、平成十九年四月二十二日執行の五條市長選挙前に、榎市長が辞めない場合、ダイオキシシン問題で榎市長を責めると、吉野晴夫氏から田川 氏に話を出した」と結論付けられます。

榎市長が中途退任した」とダイオキシシンの関係について、平成十九年五月十四日の柏荘での会食の中で、榎前市長がダイオキシシン問題で吉野のこの話や、それやつたらもう引こうかという気持ちになつたと、榎前市長が表明したことを同席していた田川 氏と西口

氏が証言していますが、榎前市長自身は、市長の中途退任は体の機能がもう果たさなくなつたからです。しかし、この間色々ありましたことが体を悪くしたことは間違いないと申し上げますと証言していますので、ダイオキシシン問題が市長中途退任の直接の原因と結論付けることは難しいですが、関係があつたと結論付けられます。

四つ目は、吉野晴夫氏が田川 氏に市長選挙の応援を依頼し、その時言つたとされている高野山への道路建設と近畿一円の産業廃棄物の谷の建設を口実とした公職選挙法違反疑惑問題です。

田川 証人は、医者へ行つてから昼ご飯を食べるまでは喫茶店でおります。わしのおる時間帯に吉野晴夫氏が何回か来て、「田川はん、選挙応援してや。高野山に対して道路をつける運動する。その一部金もつけて。」また、「五條市で近畿一円の産業廃棄物の谷を設ける。それに対して田川はんもうけてくれたらいい。」と吉野晴夫氏から持ちかけられたと証言しました。

吉野晴夫証人は、本町の喫茶店で田川 氏と会つたことあります。私の頭の中には金剛トンネルとか南海乗り入れとか高野街道

とかゴミの焼却場とかいろんな構想はありますが、田川 氏にそのようなことは言つていませんと証言しました。「北川メモ」には、吉野晴夫氏が大丈夫や国の補助つくね、五條を日本一の産業の再生工場にするねや、同級生で野原から五條高の水泳部で東京の大学へ行つて、今、定年で産業廃棄物処理事業振興財団の常務理事が、はあちゃん市長行くのなら協力するで言うてくれとんでんね、この前の市長辞めさせる件、最近榎が元気ないうとんで、もう一回市長に会つてもええと申すてくれとんねけど、うまくいつたら産廃の件たあぼうにやらせたつてもええねけどと、まとめられていきます。

以上の証言と「北川メモ」から明らかになったことは、吉野晴夫氏が田川 氏に選挙応援を依頼した時、五條で近畿一円の産業廃棄物の谷を設ける、それに対しても「田川はん、もうけてくれたらいい。」と、田川 氏に言つたと結論付けられます。終わりにあたりまして、調査費用は約百九十万円使わせていただきました。調査にあたりましてご協力いただいた各証人及び関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。